

探究心を高める総合的な学習の時間の指導法について

尾 張 佳 子

1、はじめに

社会は急速に変化し、予測が困難な時代となっている。世は Society 5.0 の新しい時代に入り、人工知能（AI）の飛躍的な進化は社会の変化の一つとしてあげることができる。人工知能がどれだけ進化し、思考できるようになったとしても、その思考の目的を与えたり、判断したりするのは人間である。

学校教育には子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、知識や情報を再構築して新たな価値に繋げていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。

答えのない課題に対して、どのように試行錯誤して考え、どのように対処していくのか。これから求められる力であり、子どもたちに付けるべき資質・能力である。

文部科学省では、2017（平成 29）年 3 月 31 日に学校教育法施行規則の一部改訂と中学校学習指導要領の改訂を行った。新中学校学習指導要領は 2021（令和 3）年度から全面实施することとし、2018（平成 30）年度から一部を移行措置として先行実施することとした。

総合的な学習の時間については、ねらいや育成を目指す資質・能力を明確にし、その特質と目指すところが何かを端的に示したものが総合的な学習の時間の目標として、中学校学習指導要領（平成 29 年度告示）解説 総合的な学習の時間編で示されている。

第 1 目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

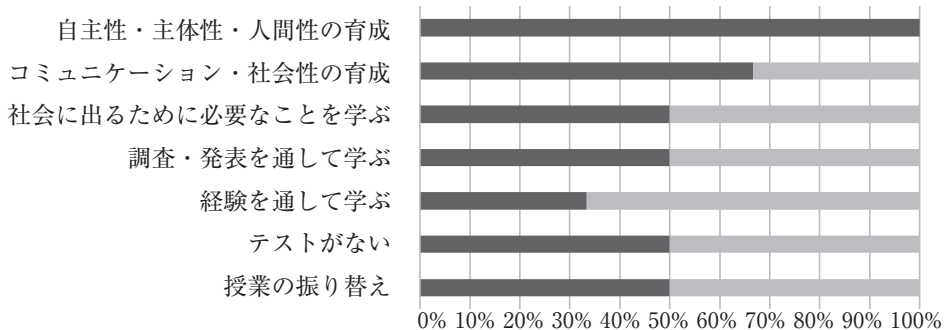
- （ 1 ） 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- （ 2 ） 実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- （ 3 ） 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

総合的な学習の時間は学校が地域や学校、児童生徒の実態に応じて、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習とすると同時に、探究的な学習や協働的な学習をすることが重要であるとされてきた。特に、探究的な学習を実現するため、「①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現」の探究のプロセスを明示し、学習活動を発展的に繰り返すことが重視されている。

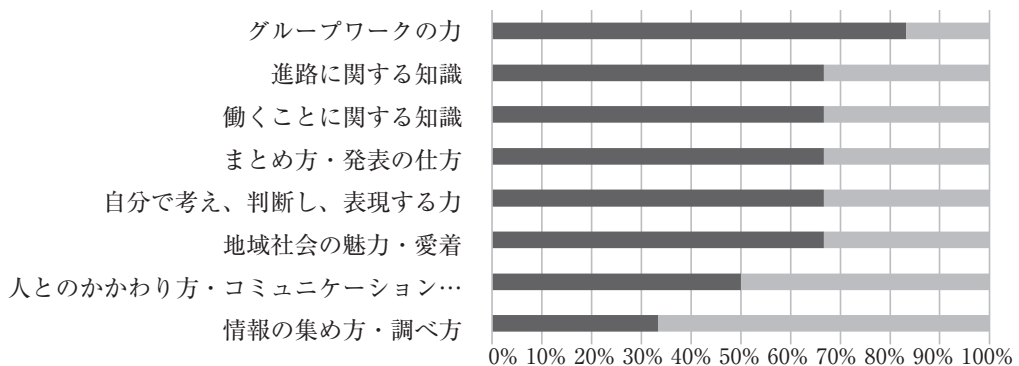
本学で筆者が担当している「総合的な学習の時間の指導法」（2020年度後期開講、受講者数6名）では、学生の経験に基づいた総合的な学習の時間のイメージに対するアンケートを行い、目指すべき指針を明示するとともに、これからの社会で求められる資質・能力の育成に総合的な学習の時間としてどのように取り組むか。また、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習とするために、生徒の探究心を高め、生き生きとした活動に繋げることのできる指導法について考察を深める時間とした。

2、学生のアンケート結果（アンケートは受講学生6名を対象として本講座初回に実施）

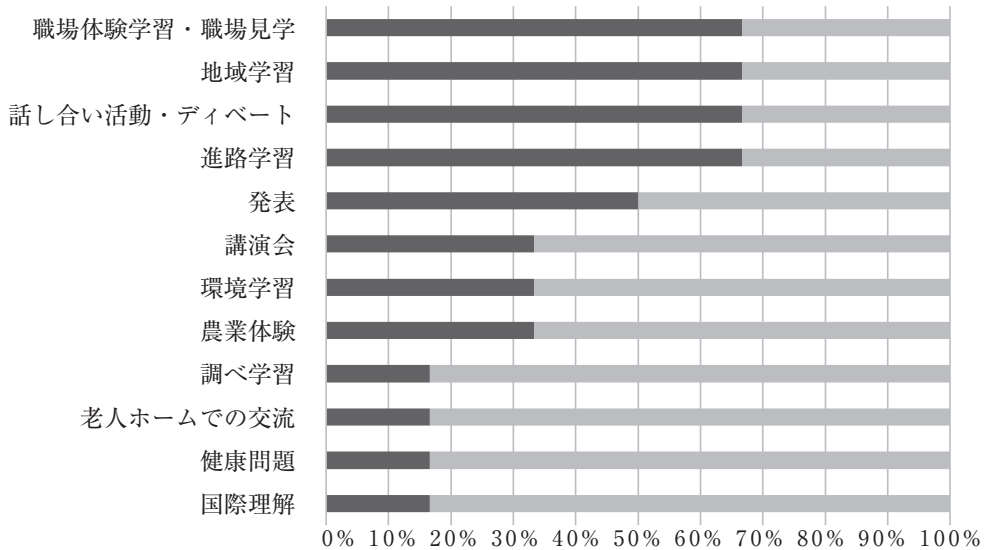
（1）総合的な学習の時間のイメージ



（2）総合的な学習の時間で身に付けた知識・技能・力



(3) 総合的な学習の時間での学習経験



(4) 「総合的な学習の時間」で印象に残っている取り組み (自由記述)

- 中学1年生・・・ディベート
- 中学2年生・・・職場体験学習、職場見学
- 中学3年生・・・進路学習、修学旅行調べ学習

(5) 記述意見

- ・他の教科と異なり、テストがないので、この時間の目的をしっかりと明示する必要がある。
- ・学習内容について、地域や生徒の実態を適切に考慮する。
- ・今までの経験の中で保育園から高等学校まで地域の人と触れ合う機会がとて多かった。
- ・新聞やレポートを作成し、意見を発表する機会が多かった。
- ・講演会が印象に残っている。
- ・職場体験学習、職場見学等、体験に恵まれていた。
- ・総合的な学習の時間で学んだ内容はどれも自分のためになり、今後生きていくうえでとても有意義であったと感じている。
- ・当時、学んでいるときに「とても楽しい」と感じていた。これからの生徒たちにも様々な体験等が必要であると思う。
- ・自分の中学生時代には、授業の振りかえやテスト勉強に使われることもあった。

- ・学習内容については計画的に深めることが大切であると考ええる。
- ・学習内容の目的と意図を明確にする必要を感じる。
- ・今から考えると地域の特性を考えた取り組みを行っていたことが分かった（農業体験での稲作等）。
- ・評価があったことは理解していなかった。
- ・評価は曖昧であったと感じている。

3、アンケート結果の考察

前述の2-(1)のアンケートで、総合的な学習の時間のイメージに関して『自主性・主体性・人間性の育成』と答えた学生が100%であったことから、すべての学生が総合的な学習の時間の意義について理解できていると考えられる。しかしながら、アンケート結果の記述意見の中に『授業の振りかえやテスト勉強に使われることもあった』という回答があったことからもうかがえるように、学校によって取り組み内容等に温度差が生じていることも事実である。

学生の経験を踏まえ、総合的な学習の時間のあり方や目指す所、目的や意義の理解を深めさせることを重点ポイントの一つとすることとした。

次に指導法の授業では、探究的・協働的な学びを深める意義や探究的なプロセスの中で考えを深める時間とするための指導法について、指導計画作成を通じて考えさせることにした。なぜなら、アンケートで学習内容を計画的に深めることや目的・意図を明確にするものの必要性についての回答があり、総合的な学習の時間の位置づけの必要性を感じている学生が多く見られたためである。そのためには指導計画を立案するにあたっての授業構想を吟味させ、指導内容を明確にすることも重点ポイントとなった。取り組みを通して生徒に付けるべき資質・能力を明らかにさせ、求める学びを明確にさせ、目的の明確化を図るために授業構想チェックシートを活用することとした(図1)。

また、アンケートの記述意見では総合的な学習の時間に評価があったことを理解していなかったと回答している学生が多く、評価の意識が希薄であったために評価方法等についての知識・技能の習得も重点ポイントであると考えた。様々な場面での評価の充実はもちろんのことであるが、評価資料の蓄積も大変重要であり、生徒の意識の変容を見るために振り返りのための学習チェックシート(図2)を活用させることとした。

アンケート結果の印象に残った取り組みにあげられた事例は、自己の生き方を考え、自分の成長を実感できる学びと自分を結びつけることができる進路学習や仲間とともに教科を超えて取り組んだ楽しかった思い出であることが顕著に表れている。

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編では総合的な学習の時間の特質に応じた学習のあり方を次のように示している。

- (1) 探究的な見方、考え方を働かせる

(2) 横断的・総合的な学習を行う

(3) よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていく

総合的な学習の時間指導法では、目標の趣旨を踏まえ、より充実した授業作りの工夫・改善に取り組んだ。

4、授業概要

これらのアンケート結果の考察に基づき、以下のような授業実践を行った。

探究的な見方、考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を通してよりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す。

目標設定については各学校の実態に即したものとなるように指導する。

目的の重要性の明示が必要であるとのアンケート結果をふまえ、指導計画の作成および具体的な指導の方法、並びに学習活動の評価に関する知識、技能の習得を授業の全体目標とする。

地域・学校、生徒の実態に応じて教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習の指導法や探究的・協働的な学習を深める指導法を考察する。

総合的な学習の時間の意義、今求められる総合的な学習の時間の指導計画について、具体的な指導計画の立案、発表を通して付けるべき資質、能力について理解を深める。

また、学習活動の評価に関する知識・技能の習得に努める。

5、授業における指導の流れ

① ガイダンス

- ・アンケートの実施（実態把握）
- ・授業構成について

② 学習指導要領における総合的な学習の時間の解説

- ・教科を超えて必要となる生き方を考えるための資質・能力と総合的な学習の時間の意義
- ・具体的な指導事例の検討

学校・生徒の実態に即した事例を考える。

(国際理解、情報、環境、福祉、健康など)

学校の全体計画をふまえ、その実現のために、どのような学習活動をどの時期に、どのように実施するか考える。

- ・学校の単元計画
- ・指導計画
- ・評価について

振り返りチェックシートの活用 (図1)

③ 総合的な学習の時間の企画立案

- ・主体的・協働的な学習による探究的な学習活動について（学校目標・指導体制）
- ・アンケート結果をふまえ、授業内容の目的の明確化・計画的な授業実践を進めるための授業構想

授業構想チェックシートの活用（図2）

- ④ 指導計画作成
- ⑤ プレゼンテーション
- ⑥ まとめ

6、評価について

総合的な学習の時間の評価については、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料、中学校総合的な学習の時間編（令和2年7月）で示されている。

改善等通知における総合的な学習の時間の記録

改善等通知においては、各教科の学習の記録とともに、以下のように示されている。

「総合的な学習の時間について」

・中学校等については、改善等通知に「総合的な学習の時間の記録については、この時間に行った学習活動及び各学校が自ら定めた評価の観点を記入した上で、それらの観点のうち、生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等、生徒にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述すること」とされている。また、「評価の観点については、各学校において具体的に定めた目標、内容に基づいて別紙4を参考に定めること」とされている。

改善等通知 別紙4 評価の観点及びその趣旨

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	（知識・技能の観点の趣旨）	（思考・判断・表現の観点の趣旨）	（主体的に学習に取り組む態度の観点の趣旨）

< 中学校 総合的な学習の時間の記録 >

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。	実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。	探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしていくとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとしている。

学習指導要領に示される評価の趣旨を理解し、生徒にどのような資質・能力が身に付いたかを文章記述するために、次のような指導を行った。

- ① 結果を評価するのではなく、その過程における取り組みを評価する。
 ② 評価が曖昧であったとするアンケート結果をふまえ、生徒による授業ごとの振り返りチェックシートを活用（図1）。

生徒が目的を持って授業に臨み、自己やグループの取り組みを振り返り、次時に生かす。指導者が生徒の変容を把握し、評価を適切に行うための評価資料として蓄積し活用するために記録させる。

(図1)

総合的な学習の時間
★今日の学習チェックシート

単元名 []

年 組 番 名 前

※この点をチェックしよう♪

学習内容	学習目標（記述内容）	振り返り（記述内容）
・この時間に取り組む内容	・何について考えるのか ・何ができるようになるか	・自分の考えをまとめたか ・友だちの意見を聞けたか ・グループで協力できたか ・次への課題

月日	学習内容	学習目標	振り返り	取組み状況 (A B C)	検印

- ③ 学習目標を明確にする。
 ・ 何について考えるのか
 ・ 何ができるようになるか

- ④ 協働して課題に取り組む姿勢を大切にする。
 - ・グループで協力できたか
- ⑤ グループワーク、発表活動を通して他者の考えも共有させるようにする。
 - ・友だちの意見は聞けたか

7、アンケート結果をふまえ、学習内容を計画的に深めるために授業構想チェックシートを作成

(図2)

総合的な学習の時間 授業を構想するにあたってのチェックシート
1、対象学年
2、単元設定（学校目標で設定されている単元）
3、題材設定
4、取り組みを通して生徒に求める学び
①興味関心
②考えを深めさせたい事項
③習得させたい力
④求める「学習に向かう力」
⑤何を身に付けてほしいか
⑥身に付けた力をどのように活用してほしいか
5、指導計画

総合的な学習の時間で育成することを目指す資質・能力については授業構想チェックシートを活用して明確にする。

8、指導計画の作成

学校の教育目標達成のため、実態に応じた指導計画を作成する

- ① この時間を通して実現をめざす「目標」
- ② 「目標を実現するにふさわしい探究課題」及び「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」からなる「内容」
- ③ 「内容」との関わりにおいて実際に生徒が行う「学習活動」指導計画においては、「単元」、さらにそれを配列し、組織した「年間指導計画」として示される。
- ④ 学習活動を適切に実施するために必要とされる「指導方法」
- ⑤ 「学習評価」
- ⑥ 計画・実施を適切に推進するための「指導体制」

探究心を高める総合的な学習の時間の指導法について

2年生「職場体験学習」学生作成指導計画

単元の指導計画（全56時間）

段階	時数	学習内容	評価規準 (評価方法)
課題の設定	1	○1年生で学んだキャリア学習を振り返る ・キャリア学習で行った、身近な大人の職業について、仕事のやりがいや大変なことを振り返る。アンケート実施。	・ワークシート アンケート
	1	○自分を見つめる ・自分の長所・短所を自己評価だけではなく、他者評価も行う。 ・自分の将来について考えてみる。	・ワークシート 話し合い活動（観察） ・ワークシート ・ワークシート
	1	○適職診断を通して自分の適性を知る ・適職診断の結果から、自分の仕事に対する適性を知る。	・ワークシート
	1	○現段階で働く上で必要な力とは何かを考え、共有する ・働く上で必要な力とは何か、働くとはどういうことか、現段階での考えをまとめる。また意見を共有する。	・ワークシート 話し合い活動（観察）
情報の収集	1	○職場体験に向けて ・希望の職場を選択させる。(第三希望まで選択)	・ワークシート ・決意書
	1	・決意書作成を通じて体験志望理由を明確にする。	・ワークシート 感想文
	2	・ゲストティーチャーによるマナー学習。働く上でのやりがいや必要な能力等をインタビューする。	
	2	・校長面接を行い、職場体験の事前訪問での訪問手順や取材方法、マナーを学習する。	・ワークシート 他者評価(校長先生)
	3	・職場体験事前訪問の計画・準備(質問事項の確認、取材方法の確認、自己紹介練習、電話のかけ方)を行う。	・ワークシート 行動観察
	30	○職場体験活動 ・体験活動前の最終確認。職場体験。	・行動観察、感想文 他者評価
	1	・働く上で必要な力(能力)は何か。働くとはどういうことか、やりがいや大変なこと(責任感等)を学ぶ。	(職場関係者)
整理・分析	2	○お礼状を書く ・職場体験を通しての発見や気づきを整理し、下書き後に清書。働く上で必要な力(能力)の事前と事後の比較をさせる。	・お礼状 ワークシート
	4	○後輩へのプレゼンテーションに向けて(1年生への発表) ・職場体験を通して学んだことや感じたことを1年生に分かりやすく伝えるための構成や方法を考え、準備をする。 ・プレゼン発表。わかりやすく説明するためにはどうすればよいか、課題(改善点)や解決策を見つけ、相互に伝え合う。	・ワークシート 話し合い活動(観察) ・生徒の相互評価 ・内容の検討(解決策、改善点)
まとめ・表現	2	○1年生への発表 ・来年職場体験を実施する1年生に発表させる。	・他者評価 (1年生アンケート)
	1	・職場体験で学んだこと、感じたことのレポートを作成する。 ・職場体験新聞の作成。	・発表内容 ・レポート
	2	→完成した新聞は校舎内で展示し(1年生の場所)、パンフレット化したものを次年度への資料として保存する。	・行動観察・感想文 ・新聞記事の作成
振り返り	1	○振り返り ・受け入れ事業からのアンケート結果や1年生への発表の感想を基に、良かった点や改善点に気づき進路について考える。	・感想文・自己評価 ・改善点の模索

9、指導計画のプレゼンテーション

自分の企画立案した指導計画をプレゼンテーションすることによって、目的を明確に示すとともに、伝えたいことを論理的に表現させる。

他者のプレゼンテーションを聞き、自分自身の考えを更に深めさせる。

【プレゼンテーション後の意見】

- ・自己評価だけではなく、他者評価をさせる取り組みが良かった。
- ・1年生に対して先輩から後輩に伝える取り組みが面白いと思った。後輩にもつながり、体験学習での学校の特色が生まれると感じた。
- ・新聞の作成やパンフレットの作成で体験学習をさらに深めることができている。
- ・体験後に自分の変革に焦点を当てた所がよい。
- ・まとめてしっかりと振り返りをさせることは大切だと思った。

他者のプレゼンテーションを聞くことによって、気づきを多く持つことができた。また、自身の考えを深め、相手に分かりやすく伝えることや工夫することを念頭にプレゼンテーションを行うことができたことは一定の成果と考えている。

10、おわりに

中央教育審議会答申 2016（平成28）年12月21日においては、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子どもたちに育むと謳われている。

予測困難な社会を生き抜く力の育成が求められる中で、主体的・対話的で深い学びで論理的思考を高め、臨機応変な対応ができる生徒の育成が求められている。

答えがない課題について積極的に課題解決に向かって考えを深め、実社会、実生活において探究する学びの経験を積ませることができる総合的な学習の時間の指導法について、学生たちが学んだことを学校現場で生かしていくことを期待する。

参考資料

文部科学省（2017）中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編

文部科学省 国立教育政策所 2020（令和2）年7月

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

中学校 総合的な学習の時間